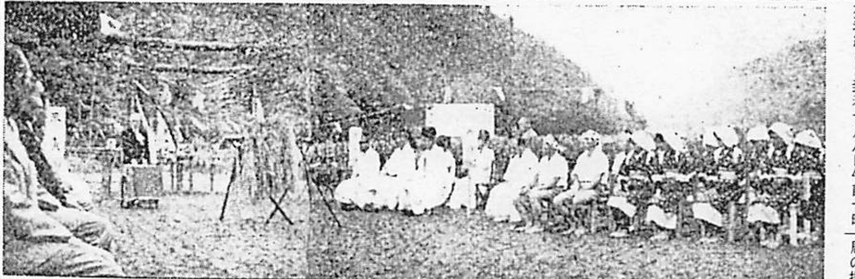
徳地町報

発行所
徳地町役場
発行者
坂本諦介
編集者
河村 績
印刷者
今澄印刷所

乾燥期だ
火の用心

産米は乾燥第一籾をぬき　量目充分計画出荷

新嘗祭献穀齊田の抜穂式小沢知事参加行わる



この日夜来より曇り勝ちの天気で大切な儀式をひかえ心配されたが、幸に持ち直し一同愁眉を開く中を、定刻三十分前には早くも小沢知事は来賓一番乗りという熱心さ、つづいて各界来賓及び一般参列者続々と到着十月八日午前十時八坂地区奥河内原勇氏所有の献穀田に参集開式された。

思えば今春四月奉耕者を命ぜられるや、誠心誠意奉耕に専念した原氏の献身的努力は勿論是を助けた部落の人々の援助協力、関係当局の指導等の綜合力が結集された結果順調に生育し、台風九号、十二号の影きようを蒙つたとは言え見事な出来ばえで、今日の佳き日を迎えたわけで、関係者の心情を思うと感慨一しお深いものがあつた。

抜穂は伊藤町長、小沢知事を始め各奉仕者の手で厳かに行われ午前十一時三十分めでたく終了した。

当日光栄の奉仕者次の通り

神官　斉主　上野正典
次　金子利武　佐伯哲三
楽人―松永正義　斉藤重胤
抜穂奉仕者
坪山弘和　井原英夫　澄川和与
原明徳
水津勝枝　粟屋慶子　原　藤江
斉藤洌子　山崎由美子　吉岡恵子
田中俊子　賀屋才子
所役
祭主―町長　次―助役
奉耕長―原　勇
副奉耕長　斉藤　琴

第三回定例徳地町議会

新教育委など議決確定

本年度定例第三回徳地町議会は九月二十五日午前九時より出雲公民館に於いて開催せられた。

今期議会の特色は「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」で新に町長が教育委員会委員の任命を必要とするので、町議会にこの同意を求める議案が提出されたことであつたが、提出議案全部議了し万場一致可決確定され正午閉会せられた。

当日提出議案次の通り

1. 徳地町議会常任委員会及び特別委員会条例中一部改正について この条例によつて町議会の常任委員会は
総務委員会　経済委員会　施設委員会　文教厚生委員会の四常任委員会となる。
2. 徳地町議会常任委員会委員の選任を求めることについて。
3. 徳地町議会議員等報酬及び費用弁償支給条例中一部改正について。
4. 徳地町教育委員会委員の報酬及び費用弁償に関する条例制定について。
5. 徳地町教育委員会委員任命について、
徳地町大字伊賀地五三五番地
徳地町教育委員　山本　林作
徳地町大字上村一三一四番地
徳地町教育委員　松田　実雄
徳地町大字鯖河内一四三六番地
徳地町教育委員　武石　恒夫
徳地町大字三谷一八九九番地
徳地町教育委員　有井　義治
徳地町大字柚木一七八番地
徳地町教育委員　伊藤　英義
の各氏に対し議会の同意が与えられたによつて十月一日付それぞれ発令されることになつた。
6. 徳地町監査委員の選任について
有井義治氏の教育委員任命が決定され監査委員を辞任されたので後任委員として
徳地町大字島地一五二番地
監査委員　津室　唯人
が新に選任せられた。
7. 徳地町建設審議会条例制定について。
新市町村建設促進法の規定に基いて、当町は県下のモデル町として指定されたのでこの運営に関する審議会を設置せんとするものである。
8. 柚野地区に国民健康保険実施について。
十月一日を期して柚野地区に国民健康保険を実施するもので、地区民待望の制度が遂に実施に移されるわけである。
9. 徳地町国民健康保険規約の一部改正について。
10 徳地町職員伝染病危険手当並に屍体処理手当の支給に関する条例制定について。

教育委員就任挨拶

今回十月一日付をもちまして、私共五名の者が町長さんによつて新しい法律による徳地町教育委員として任命をうけました。

私共は町民皆さまの御指導と御協力によりまして、教育の重要性を再確認して、あくまでも教育の中立性を堅持し、世論を軸として教育行政の運営に渾身の努力を致したいと存じますので、何卒町民皆さまの御支援を御願い申しあげます。

茲に徳地町報の紙上を借りまして簡単ながら御挨拶申しあげます

昭和三十一年十月一日

委員長　有井　義治
委員　伊藤　英義
〃　松田　実雄
〃　武石　恒夫
委員　教育長　山本　林作

観光広報映画

私たちの町完成する

町では昨年来町長さんの発意企画で、山口県広報連絡協議会に委託して「私たちの町」の映画撮影中であつたが去る九月十八日フィルムが完成引渡を受けた。この映画は堀附近のふかんを始め、滑宮林の偉容天然記念物上村薬師さん、新嘗祭献穀田お田植式、柚木盆踊(志賀団七踊)観光大原湖等多数が収録されている。

町では今後集会ある毎に各地区で皆さんの御覧に供します。

順調に入つた県税

三十年度県の予算額は、百五十九億円、このうち県税収入の予算は二十八億八千万円で、全体の十八%を占めています。

ところでこの県税は三十年度には約三十億円（見込額）も入り予算額を約一億円も上廻る好成績でした。

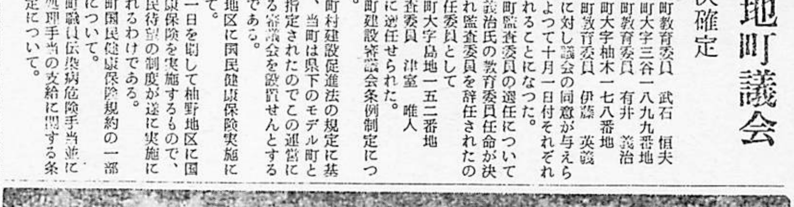
これは主に県民の皆さまの格別の御努力と経済界の好況によつて法人関係の税金や個人事業税が相当ふえたからです。

各税目別の収入のあらましをみますと、県民税四億円、事業税十七億円、遊興飲食税二億円、自動車税一億円、固定資産税一億円その他の税が合せて約三億円となつています。

県税には県民税、事業税等十数種の種類が、ありますが中でも県民税は納税者の範囲も広く特に皆さまと一番つながりの深い税金ということができます。昭和三十年度皆さまの町の県民税収入状況(見込額)は次のようになつています。

予定収入額百三十四万円　収入額百壱万円、未収入額三十三万円　収入率七五%

(県民室だより)



短信

各地区慰霊祭執行せらる

町では本年度の戦没将士慰霊祭を次の日程によつて各地区別に神式により営んだ。各地区共来賓、遺族多数出席され盛会裡に終了し、今後における遺族の覚悟、国家の援護方策等についても多大の成果を収めることができたといえましよう。

十月二日　堀小学校講堂
十月三日　八坂忠霊塔前
十月四日　柚野支所
十月五日　島地大社教周防分社
十月六日　串公民館

(写真は八坂地区慰霊祭)

串地区遠内分校竣工

串小学校遠内分校は去る八月五日島地の藤岡組（藤岡島一氏）の手で増改築に着工工事を急いでいたが、十月十二日完成竣工式が行われた。

全分校は木造平家建モルタル式で一部増築を合せ延三十二坪、総工費四十九万円で前記藤岡組で施工されたものである。

正しい通行と安全運轉

10月16日から10日間

今年も恒例の秋季交通安全県民運動が行われます。交通機関の発達によつて、私達の社会生活は非常に合理化されてきましたが、反面交通事故も年々増える一方です。

★今年の交通事故

県下の交通事故は今年に入つて急ピッチに増え、八月末で一三〇六件一〇一名の死亡者がでており戦後最高記録を示しています。

徳地町内でも十九件十七名の負傷者を出しております。その主な原因はもちろん車輌の増加と道路施設の不備があげられましようが、それにもまして運転者の不注意や歩行者の無関心な歩き方に一番大きな原因があるようです。

★歩行者は

◎道路の横断をするときは左右の安全を確かめてから
◎踏切は必ず止つて安全を確める
◎幼児や子供を道路で遊ばせない
◎人は右、車は左をよく守る

★自動車は

◎速度制限を守る
◎追越しは正しい合図をして前車の右側を追越す
◎徐行区域は必ず徐行する
◎無免許運転は絶対にしない
◎飲酒後や体の不調の時は運転を遠慮する
◎仕業点検は綿密に励行する

産米改善に努め
往年の聲価を回復せよ

昨年の豊作と全国的今年の豊作予想と相まつて、食糧事情も大変よくなり、米穀の統制てつ廃問題等をめぐり県下あげて産米改善運動が展開されております。

農家の皆さん、次の事柄に気をつけて、往年の防長米の声価を取り戻すよう産米の品質を高めることは、取りも直さず農家経済を豊かにする原因ともなるので、切に皆さまの御協力と実践をお願いする次第です。

◎乾燥第一に努力しましよう

米の生命は水分の多少で定まります。

水分が一五％以上もあれば完全に貯蔵ができないのです。

今年からは乾燥不充分な米は「規格外米穀」に格付して別に買入れることになりました。

「規格外米穀」は一俵当り四等米より百弐拾円安く買われます。

◎籾や屑米の混入をなくしましよう

山口県の米は籾や屑米が多く混入しておると批判されています。

今年からは籾摺の際「籾を抜く」ことに努め、更に米撰機にかけて十分立派な米にして下さい。

◎正味量を正確に入れましよう

中味の量が欠けると信用を失う大きな源泉となります。

俵や叺は一々秤つて正味量を十分入れ規定通りの包装をして、その目方は毎俵（叺）毎に正しく秤つて票箋の裏に記入しましよう。

◎定つた日に定つた数量を出荷

本年は規定通りの厳正な検査が行われますが、検査官や農協で皆さんの御希望をきいて、部落別に出荷の日割をきめますから、検査の時は必ず立会して御協力を願います。

◎新しい規格によつて検査します

今年から去る四月十二日改正された新しい検査規格によつて検査が行われるので、検査官や農協にお尋ね下さい。

◎酒米の検査

今年から県内の酒米（雄町系統）が生産過剰になり、山田錦を県外へ約九千俵搬出することになりましたが、これは戦前戦後を通じ初めてのことで、本年の成績如何によつては、将来本県産米が高く売れるか否かの別れ目になりますので、酒米の検査は特に厳正に行いますから、乾燥、調製は入念に行つて下さい。（食糧事務所たより）

柿の収穫から税金
一農家の努力

群馬県佐波郡境町大字上武士の栗原英一さんは昨年庭先の柿の収穫から税金を生み出して近在の話題となつたがこれにしげきされ今年は多くの村の人達が柿の手入に大童である。

佐波伊勢崎地方の農家ではそれぞれ二三本位の柿の木を庭先にもつてゐるが殆んど野放しなので毎年実はなつても未熟のまゝバタバタ落ちるが土地の人達は天候のためだらう位に簡単にかたづけてあきらめていた。

ところが栗原さんは元来防虫害の研究を続けてゐた人で村の改良普及員とも相談し七―八月に二―三回薬剤消毒をしたことによつて完全に落下を防ぐことが出来た。

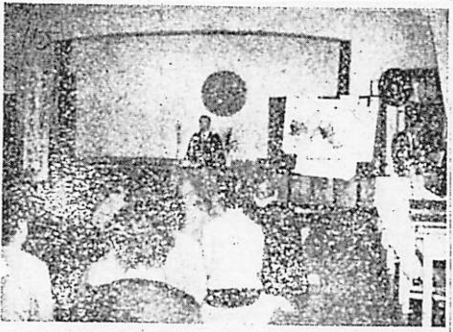
家で充分食べた残りを市場に出荷し一ケ十円以上に売れてかなりな収入を得たのでそれを見た村の人達は早速柿の消毒をつゞけよい成績なので農家の人達はホクホクである。

栗原さんは「柿の収穫を多くするためには剪定とか施肥など必要であるがとりわけ薬剤撒布が大切です一本の木から二―三千円の収入を得て貯金しておくと宅地利用だけで知らずの中に税金がまにあいますよ」と零細な農家経済ではこれはよい納税貯蓄法だといつて大喜びである。

九月十四日日本4H新聞記事転載

皆さん鶏卵貯金はいかゞですか五〇％の産卵率としても一ケ十円で十羽飼へば一ケ年には一万八千円の収入があるわけですから鶏卵による納税貯蓄もよい方法です。

納税だ　日頃そなへた　この貯金



第一回社会福祉大会
9月17日島地中学校で

郷土をより住みよい社会にするためには、社会福祉活動に負うところが多いが、今回この活動に関係ある各職域、団体等が集つて、過去の実績を反省すると共に、新しい課題を探究して対策を協議し今后の活動指針にしようと秋晴れの九月十七日午前九時より島地中学校講堂に於いて徳地町第一回社会福祉大会が盛大に開かれた。

当日は特別講演宇部医大教授野瀬茂勝先生の「徳地町民の健康状態より見たる生活のあり方」があり参会者に多大の感銘を与えた。

当日光栄の表彰者次の通り

○民生委員功労者
田中ヨネ　宮本孝道　永松藤助
橋本俊二　有井常治　宮崎英子
○里親　里子被表彰者
里親　吉野虎一
里子　浜谷健治
○母子家庭模範者　井上　節子
○模範老人　中村作二郎
○衛生自治会　串地区安養地部落
○島地上村保育園組合

（写真は野瀬教授の特別講演）

もつと裏作を研究し
麦作も引きあうように

最近外国特に米国、カナダ等では安い良質の小麦が沢山とれ日本にもどし／＼入つて来るので、日本の麦だけ高い価格で取引される希望はもてません。特に小麦では輸入ものに比べて二割も高い価格で取引されているが、それでも農家が麦を生産するのにかゝる金額は売価と同じか又はそれ以上になつています。このことは如何に我が国の麦の生産費が高いかがうかがわれます。前記のように農家から購入される価格は外麦に比べて二割も高いので政府もこれを引き下げて民間の製粉、製麦会社も喜んで国産麦が購入できるようにしようとし今年も小麦を初め皮裸麦も大巾に引き下げています。

それで今秋の麦作も十分考えて損をしないような経営を考へねばなりません。麦は安いからといつて冬作をやめてしまふ事も考えられません。他に有利な裏作を考えるとか、或は販売する麦だけ考えず農家内で麦の利用方法を考えていきませう例へば裏作を軽く考えて夏作物を沢山とる事や麦を青刈りにして飼料や堆肥に麦の利用を考えるとか。

いづれにしても生産費を二割下げる事は農作業を出来るだけ省力化機械化して多収の要点をにぎると共に労力の節減をはかる事が肝要です。

二、種子消毒の完全実施

麦にはいろいろな病気があるが種子伝染即ちタネから伝染する重要な病気が多い

種子伝染だけのものは当然タネの消毒だけで防ぐことができるがその他のものはタネの消毒と同時に他の防除法も行はねばならない。

従つて麦は種子消毒の効果が非常に大きいが依然消毒されていないものが多い。既に消毒をしたものは良いがそうでないものは必ず種子消毒を行いませう。

初めに有機水銀剤と温湯の二重消毒法。

有機水銀剤（ウスプルン、リオゲン、ルベロンなど）一〇〇〇倍液に一時間浸け後風呂湯浸を行ふ。風呂湯浸は夜九時頃浸けて翌朝引き上げるが先づ温度を摂氏四五―四六度位（熱い湯の好きな人が出た温度で良い温度計には一―二度誤差のあるものが多いので注意）にして水を打つて完全に火を消してから浸漬しフタを少しあけて一時間に一―一、五度位温度が降るようにしておけば安全に且つ効果的に消毒できる。

三、適期播種

播種適期は山間地で十月下旬、平坦地で十一月上中旬が標準であるが秋播性の高い品種は早播の害が少く反対に晩播による減収が大きいので早く播くようにする。

△秋播性の高い品種

大麦魁　埴穀　早生裸　小珍好四号、コビンカタギ一号、白麦八号など

又一般に播巾が狭く又厚播が多いようであるが播種量を減せば適当な株間に均播できて能りつ的で且つ無駄も少い。

四、肥料

施肥量は反当生産目標より算出するが一石生産に必要な成分量はチッソ一貫、リンサン八〇〇匁、カリ九〇〇匁程度である。（これは地区に依つて多少異る。詳細は担当普及員に御相談下さい）

今麦一作反当施肥量を堆肥二百貫塩安六貫五百匁、ヨーリン（又は過石）七貫、塩加二貫五百匁、石灰十五貫とすれば石灰は耕起又は砕土の際全量を施し窒素は追肥重点が良いので塩安二貫五百匁位、リンサンは全量元肥にカリは一般には全量を砂地等で肥持ちの悪いところでは一部を追肥に残して施す。

最近各地で苦土欠乏症状がみられるがこのようなところは石灰の代りに苦土石灰を施用するか過石の代りにヨーリンを使用すること

△苦土欠乏症

幼穂形成期頃から穂孕期にかけて小麦では下葉から緑色がうすくなり次で葉にジュズ玉状の緑の斑点が葉脈にそつて残り葉脈間は淡黄色になる。しかし葉は枯れることは少い。大麦ではジュズ玉模様は見えにくく、ただ葉脈にそつて緑色が帯状に残り葉さきやふちが枯れることがある。

いづれも四月中旬以降になつて生育が盛となると症状が判りにくくなるので見逃され勝ちになることが多い

（未　完）

新購入の町消防自動車

徳地町で今回購入した消防自動車は、ニツサン級ジープ型で、105馬力、毎分750ガロンの放水ができ、10月10日町消防団の新ポンプとして交付された

北九州市場向
特産そ菜ピース栽培

北九州市場向けのピースの共同生産出荷については昨年は串及び三谷地区で栽培され共同出荷が行はれたが、今年は三谷地区の夏胡瓜の栽培出荷が予想以上に好成績を収めたことが特産そ菜産地育成への関心を昂め（十月上旬現在）既に確定したピースの栽培計画は次のとおりである。

地区	面積	予定生産量
三谷	五〇反	一〇、〇〇〇貫
引谷	二〇	四、〇〇〇貫
串	一〇	二、〇〇〇貫

今後播種時期迄には尚計画生産えの動きのある地区もあるからおそらく十数町歩に及び栽培管理に周到な注意と努力がはらはれたら出荷可能量は二万貫以上となるので近在小都市を目標にした出荷は到底望めず当然二〇〇万人の大消費人口を有する北九州市場に向けられる。その為には品質及び生産量の向上確保を図る為の技術改良が重要であることは勿論であるがこの特産育成の成否が決定し将来産地として成立つ為には共同出荷の体制を整えることが重要である先に述べた三谷その他の地区では協同精神が旺盛で各自が良く自覚して体制ががつちり出来ているので、将来必ず県下屈指の産地として市場から期待される地区になることが予想され、新しい徳地町の営農改善の指標として注目に値するものがある。

そこでそれらの産地に対しては重点指導地区として改良普及員は技術指導の徹底を期する方針でそれぞれ所要の準備を進めているが自家用途のピースの栽培についても役立てばと考え以下栽培技術の概要について記すことにする。

○栽培地の選定、ピースは連作をきらうので一度栽培したところには七八年栽培出来ないので良く考えて畑を選ぶことが大切である又酸性に弱いので一般に酸性の畑が多いので反当三〇貫位の石灰を施すことが必要である。

○品種及び種子主な品種としてはウスイと白竜であるが山口県のピースの産地では今年はウスイに統一される。

種子は反当二升、種子に汚斑のあるものは除きウスプルン一〇〇〇倍液で一時間消毒する。

○種まき時期　佐波郡北部では十一月中旬を標準にし余り早まきすると冬の間寒の害を受け、晩まきになると生育が悪くなる

○ウネの巾及び株間、ウネの巾四尺株間一尺五寸の一条まきとし支柱は三月上旬に直立に立てる。一ケ所には三―四粒タネをまく。

○肥料ピースもさやえんどうも普通木灰位を施して作つているがかなりの収量をあげるためには相当肥料を施す必要がある。先に述べた共同出荷の産地では次のような肥料でやつて行く方針である。

堆肥四〇〇貫（ウネ全体に鋤きこむ）ようせいりん肥一〇貫を堆肥五〇貫に混ぜて積んでおきウネに打込む。ガンギに硫安五貫、塩加三貫を混ぜてふり浅く打込む。

追肥として二月上中旬に伸びはじめた頃、硫安三貫、塩加一貫を混ぜて施す。

○手入れ、重要な仕事は土寄せとクスリかけであるが、土寄せは十二月下旬から、クスリかけも立枯予防のため石灰硫黄合剤をかけるがこれも十二月下旬からでその他の病虫害は主に春になつてからであるからそれらについては次の機会にゆづることにする。

以上ピース栽培の概要について述べたがピースの収量や品質は栽培技術の上手下手でいちじるしい差が生じるそ菜であるから、栽培管理には特に注意して市場から慾しがられる品質の優れたものを生産すると共に、経済的に成立つかどうかは収量の多少によるから最大限度の収量をあげるようにつとめることが大切である。

最後にピースの栽培について農業経営内部での地位を考えて見ると山間部の裏作としてなかなか有利な作物が見当らないが、ピースは現在北九州市場でも山口県の産地に大きな期待をかけており、その消費も甚だ大きな量であるから市場性は有望である。収量は普通二〇〇貫（反当）とされているが先進地では六―七〇〇貫も採つているので収量をあげる為に技術改良を徹底することによつて価格の面を昨年の実績から見ても生産者手取り価格一〇〇円程度であることを併せ考えると経済的に決して不利ではない。労力の点では麦に比べて多くは要しない収穫期は農繁期となるが、現金収入をより多くしようとすればより忙しい目に合はなければならないこともあるので止むを得ないであろう。更に麦の販売代金の農家に支払はれる時期以前に現金収入があるので農家経済上に果す役割が大きいそのような経済的な仕組みは本年の三谷地区での夏胡瓜の栽培出荷が八月から十月にかけて行はれ栽培農家ではこうした時期にかなりの現金収入があつたので経済的に大きな役割をして呉れたことは認められているこうした経済の仕組みを経営の中に考えておりこんで行くことがいよいよ必要な時代になつて来ることが考えられるのではなかろうか。